

多摩市教育委員会 殿

学校名 多摩市立東寺方小学校
校長名 伊藤 智子 印

令和4年度教育課程について（届）

このことについて、多摩市公立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、これからの社会に主体的に対応し、国際社会に貢献できる、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。この教育目標を達成するため、次の教育目標を設定する。

◎たくましい子 ○おもいやる子 ○かんがえる子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

① 健やかな体を育む教育の推進

- ア 児童が進んで心と身体の健康作りに取り組む態度を育むために、体育・保健・食育の学習指導の充実を図る。スポーツに親しむ習慣や意欲を育て体力を養う。
- イ 自他の命を大切にする安全教育を通じて危険予測、危険回避の実践力を身に付ける。

② 豊かな心を育む教育の推進

- ア 学校の教育活動全体を通して心の教育を行い、豊かに関わりより良い人間関係を構築できるような社会性・道徳性を培う教育を推進すると共に「特別の教科道徳」の授業の一層の充実を図る。
- イ 学習及び環境の構造化を図り、児童一人一人が見通しをもって学校生活が過ごせるように、認め合い・支え合い・高め合える温かい人間関係を育み、自己肯定感を高める。
- ウ いじめをなくし、互いに認め合い、励まし合い、ともに学び合う活動を重視し人権尊重の精神と児童相互の連帯感の育成を図る。

③ 確かな学力を育む教育の推進

- ア ユニバーサルデザイン的手法を用いて基礎基本の知識・技能の習得と活用を図るとともに、寺小スタンダード及びICT機器等の活用を通してわかりやすい授業づくりを展開する。
- イ 1人1台タブレット端末を有効活用した授業を展開し、一人一人の個性に合わせた教育の実現を図り、主体的に学び追究しようとする態度を育てる。

④ ESDを、生活科・総合的な学習の時間を核に位置付けるとともに、特別活動・教科等横断的な視点で組み立て、地域人材を活用し教育活動全体で実践する。

- ア ユネスコスクールとして、世界の環境・経済・社会の状況や国際的な協力システムを理解し、持続可能な社会の担い手となる児童を育む。大栗川での環境活動、ひのきの森での自然体験活動、町探検、環境・自然・エネルギー問題、社会参画などESDによる探究的な学習を充実させ、主体的・実践的・創造的な活動を展開させる。
- イ 連携する中学校と指導上の円滑な接続及び発達段階の共有化を進め、9年間を見通した連続性のある活動を展開し、一貫したESDを推進する。

⑤ コミュニティ・スクールとして地域に根ざした学校としての価値を高める。

- ア 2学期制の取組を確立し、学校運営協議会、世話人会組織を核に、保護者・地域、その他の関係諸団体と学校との双方向的な協力体制を推進しながら、地域に開かれた学校運営を行う。また、保護者・地域への情報発信を随時行うとともに、学校の課題を明確にし、迅速な学校改善を目指すとともに、保護者・地域への説明、結果責任を果たす。

2 指導の重点

(1) 各教科

- ①育てたい資質・能力を明らかにし、教科等横断的な視点に立って、年間指導計画を作成する。
ユニバーサルデザインの手法を用いた授業展開、ICT機器等の効果的な活用を通して、児童の学習への興味・関心と学びの質を高め、論理的思考力の育成をはじめとした「主体的・対話的で深い学び」を実現する。寺小スタンダード（授業の構造化、ねらいの明確化、スモールステップ等）に基づくどの子にも分かりやすい指導をすすめ、生きて働く知識・技能の着実な習得を図る。
- ②学力調査結果等を分析し作成した「授業改善推進プラン」を基盤として、1単位時間のねらいを板書等で明確にし、振り返りを大切にした「何ができるようになるかが明確な授業」「分かる授業」の充実を図る。「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を個々の児童の補習に活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。漢字・計算については、学期末漢字・計算テストを実施し、全校児童の定着状況を見取り、定着へ向けての指導を徹底する。習熟度別学習や教育ボランティアの活用、地域未来塾の取組による放課後や長期休業日を活用した個に応じたきめ細かな指導の実践、多様な学習形態による指導、指導方法や指導体制の工夫を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ③全学年で「アプリ版東京ベーシック・ドリル」に取り組む時間を設定し、基礎的・基本的な学力の定着・伸長を図る。家庭との連携「はなまる習慣」や地域未来塾での補足的な学習への活用を推進する。
- ④1人1台タブレット端末等のICT機器を活用した授業における実践や、プログラミング的思考を育む学習活動を通して、児童の学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育み、学力向上につなげる。
- ⑤自己の課題を踏まえた目標を設定させ東京都体力統一テストに取り組みせるとともに、体力の向上を目指した授業改善を行う。運動の日常化を図るために外遊びを励行するとともに、体力向上推進週間と合わせ、運動週間（なわとび・マラソン）の取組を継続する。学校2020レガシーの取組の継続を図る。保健分野の学習における新型コロナウイルス感染症に関する正しい理解を促進する。
- ⑥各教科等において、児童の学習意欲が高まり効率よく授業が展開するように、教材提示装置・プロジェクター・タブレット端末・電子黒板などのICT機器を積極的に活用する。算数・英語でデジタル教科書を活用し、どの児童にも確かな学力を身に付けさせられるよう指導の充実を図る。また、オンライン学習等にスムーズに対応できるようにする。

(2) 特別の教科 道徳

- ①「個性の伸長」「希望と勇気、努力と強い意志」を学校の重点とし、道徳教育の全体計画・年間指導計画を改善し、全教育活動を通しよりよく生きるための基盤となる道徳性を育む指導を行う。
- ②いじめの未然防止や生命を尊重する指導の充実のために、「親切、思いやり」「公正、公平、社会正義」を年間計画の適正な時期に位置付け、授業実践を行う。全教育活動を通して人権尊重教育を推進し、児童の人権感覚や人権意識を高め、生命を大切に、自他を思いやる心情と実践力を育む。「人権教育プログラム」を学期1回以上活用する。
- ③道徳授業地区公開講座を中心に学校公開や保護者会を通して保護者地域との連携を図り、家庭・学校・地域における道徳教育の役割や有り方について共通理解を深め児童の成長を認め励ます手立てとする。

(3) 外国語活動

- ①外国語を通じて、日本語や我が国の歴史や文化、習慣との違いを知り、様々な国の言語や文化について体験的に理解を深める。
- ②担任をT1として、年間指導計画に基づき、教材「Let's Try!」等を積極的に活用した音声に慣れ親しむ指導の充実を図る。ALTとの連携による年間17時間の指導の充実を図り、ICT機器の活用によるネイティブな発音や映像を通して、英語を用いたコミュニケーションに意欲的に取り組み、英語に慣れ親しませる。

(4) 総合的な学習の時間

- ①寺小ESDカレンダーの作成により、3年生では大栗川の探検や地元農家や施設へのインタビュー活動、4年生ではエコ探検隊の実践、5年生では米の生産活動や防災教育、6年生ではひのきの森や地球温暖化防止、エネルギー・発電等の問題について学習し、課題意識をもって実践する事を通し自然環境の保持・保全に積極的に働きかける意識を育て問題解決のために必要な能力や態度の育成を図る。
- ②各教科で習得した知識・技能を相互に関連付けながら、自ら課題を見付け、考える力を育成するとともに、コミュニケーション力やよりよく問題を解決する資質や能力を育成し、主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てる。
- ③身近な自然・人材・施設等を生かした体験学習を充実させるとともに、ゲストティーチャーを活用するなど、授業形態の工夫改善に努め、豊かな情操を養う。

(5) 特別活動

- ①学級活動では、他者を受け入れたり折り合いを付けたりする力を育むために、学級集団育成上の課題や発達課題に即した計画的な指導を通し自覚や責任感を高める。また、話し合い活動を通してより良い人間関係を築く力、協力して諸問題を解決しようとする自主的実践的な態度を育てる。
- ②児童会活動においては、異年齢集団による交流活動などを通して集団による自治的能力の育成を図る。
- ③クラブ活動においては、共通の興味・関心を追究する活動を通してより良い人間関係を築く力を育てる。
- ④学校行事では、児童一人一人が役割を担い、その責任を果たすような活動を工夫し、児童に集団の所属間や連帯感を深め、協力してより良い学校生活を築こうとする態度を育成する。また、体験を振り返り自身の変容や成長を自己評価した記録を「キャリア・パスポート」に継続して記録する。

(6) 特色ある教育活動

- ①ユニバーサルデザインの手法で、どの子どもにも居心地よく、授業に集中しやすく、見通しがもてる掲示物の工夫や学習用具の整理整頓など、全校で教室環境を揃える。
- ②「きょうだい学年」を中心にした交流活動や特別支援学級との交流及び共同学習を、年間を通して位置付け、実践を重ねていくことを通して、豊かな人間性を育む。
- ③引き続き学校 2020 レガシーのスポーツに親しむ取組（スポーツ志向）、障害者理解、ボランティアマインドに関する取組を継続し、伝統文化・国際理解に関する取組の育成も併せて、自己実現に向けて努力を続けたり困難を克服したりする意欲を育成するとともに、スポーツへの関心を高めスポーツに親しむ態度を育てる。
- ④コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会と連携・協働し、学校関係者評価を生かしながら、市民力を活用したネットワーク型学校経営システムを基に教育活動を展開する。様々な地域・人材ボランティアとのかかわりを通して、地域に愛着をもち、地域の一員として、地域に貢献する人材育成の素地を養う。
- ⑤2学期制授業により、授業時数及び児童と向き合う時間を確保し、効果的・効率的な指導を進める。
- ⑥「多摩市気候非常事態宣言」を踏まえた環境教育（地球温暖化対策）の充実を図る。
- ⑦語先後礼を含む「気持ちの良いあいさつ」「靴をそろえる」を寺小の伝統としてさらに励行する。
- ⑧幼保小連携では、未就学児との交流活動を通して、児童には思いやりの心を育むとともに、スタートカリキュラムを作成し、園児の入学後の円滑な適応を図る。

(7) 特別支援教育

- ①多摩市特別支援教育推進計画に基づき、校内委員会及び特別支援委員会で児童の実態を把握し、保護者や関係機関と連携するとともに、保護者とともに学校生活支援シート・個別指導計画を作成・活用する。またその際、特別支援教育マネジメントチームによる巡回相談をはじめとする市の特別支援教育推進体制の効果的活用を図る。月に1回以上の校内委員会を設定し、3名の特別支援教育コーディネーターが中心となり、実際の指導や支援のあり方、研修を組織的に検討し、スクールカウンセラーやピアティーチャーと連携の上、実践を深めていく。
- ②特別支援教室の指導の充実を図るために、一人一人の児童の自立活動の内容を明らかにし、計画的な指導を実施する。また、特別支援教室での指導内容や方法を活用し、特別支援教室担当教員との連携を深め、個々の障害の状況を踏まえた担当教員の指導を通常学級での指導・支援の充実に生かすことを通して、児童一人一人が困難さを改善し、児童の学習能力や集団適応能力の伸長を図る。さらに特別支援学級「こま学級」や特別支援教室「おおぞら」による障害理解教育を実施し、自他の違いを理解し認めながら共生する態度を養う。

(8) 生活指導

- ①いじめ防止基本方針に基づき、ふれあい月間の取組や年3回のアンケート調査、日常の観察・記録を徹底し、児童の人間関係の小さな変化を見逃さないことでいじめや登校しぶりの児童を早期に発見する。いじめ・不登校対策委員会を定期的に開催し、全教職員で組織的に迅速に対応し、安心して登校できるようにする。また、教員を対象にした研修会やいじめ防止をテーマにした授業を年3回実施するとともに「多摩市いじめ防止対策推進条例リーフレット」を活用し、学校・家庭・地域のいじめ問題への理解を深めることを通して、「いじめをしない、させない、許さない」指導の徹底を図る。教育相談機能を活性化させるために、スクールカウンセラーとの連携を強化する。第5学年においてはスクールカウンセラーによる全員面接を実施する。
- ②不登校の解消を学校の重点課題ととらえ、「不登校総合対策」を活用するとともに、ICTを活用した学習保障を含め、学校の対応力を向上させるとともに、不登校の早期発見・早期対応を徹底する。また、不登校の状況を的確に捉え、関係諸機関と適切に連携するとともに、児童・保護者に寄り添った対応を行う。
- ③毎週金曜日に実施する生活指導夕会で、児童の情報を共有し全職員の共通理解の下支援にあたる。
- ④生活安全・交通安全・災害に対する安全など情報を正しく判断し、安全な行動を選択できる判断力と実践力を身に付けさせる。SNSルール、メディアリテラシー、安全指導の充実を図る。
- ⑤新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別防止、SNS家庭ルールの遵守を推進する。